

北槎聞畧

序引
目錄
凡例

卷一

一 夜 二 軸 一 二 冊	二 架	一 八 三 函 號	和 書 門 類
---------------------------------	--------	-----------------------	------------------

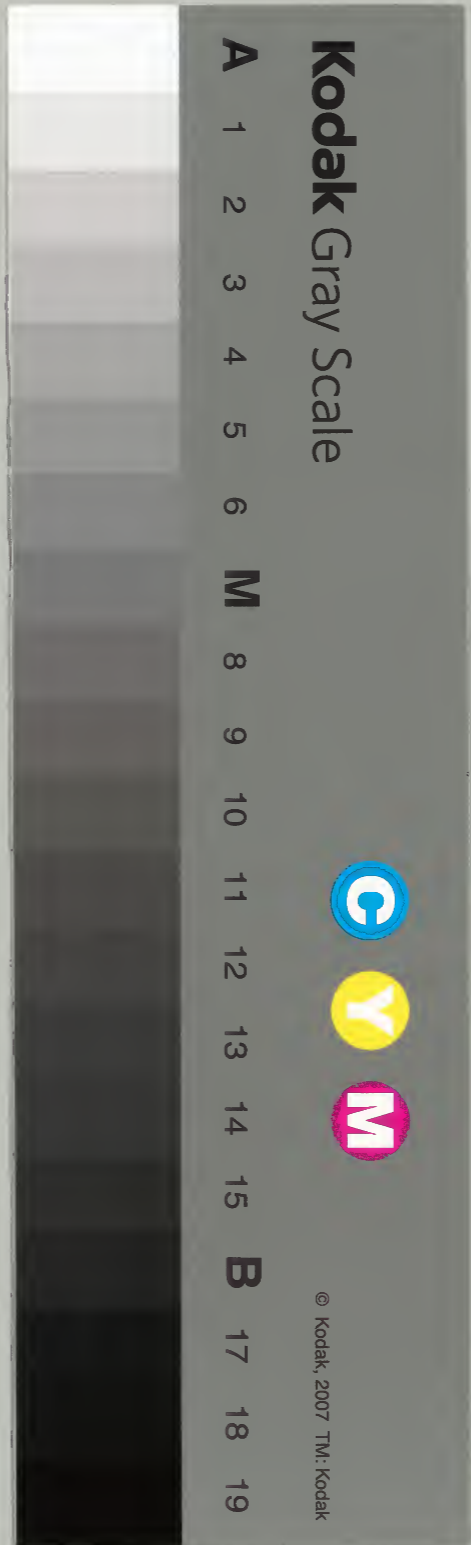
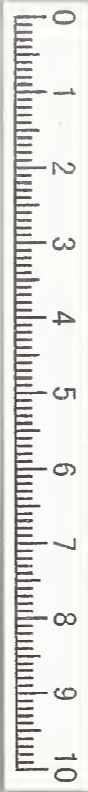
八 五 函 一 架	一 夜 二 軸 二 冊	一 八 三 〇 一 號	內 閣 文 庫 和 書 類
-----------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------------

(一)

藏

內閣文庫	
番號	和 18501
冊數	24 (1)
函號	185 579

漫
五
條



国立公文書館
National Archives of Japan

185-579



狂松閑吟

寛政四年九月廿七日

三石上菅野の使節

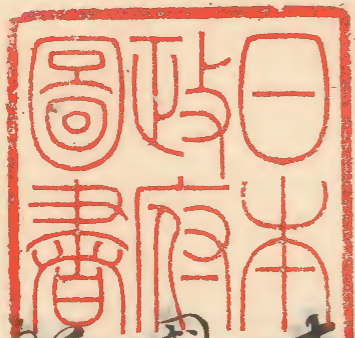
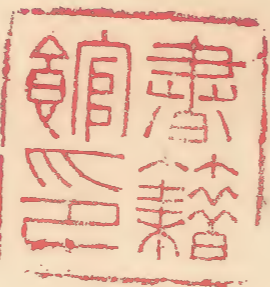
兼武深大早げり

山崎の島小淵著

王都の女主人

悲死の詩

皇の上



北槎聞略引

寛政四年壬子歲九月伊勢國の漂人

三名を魯西國の使船東蝦夷地小送

來り漂人等けり駿州の洋より彼

國の屬島小漂著年を逐と彼部中

に經歷し王都小宮と女主小湯

恩允以得と專船を差遣し

皇朝小送還と蝦夷惣轄松前若狹守

淺草文庫

源通廣

東都の

上聴小達

一をうり

御使つひされ彼

使臣しちん等勞らう賚さい帰き國こく事じ記きて後漂人ごうひょうじんを

東都小

召めいよらハ臣國瑞

内旨うちしめを奉ほう一彼國制地俗居廬飲食諸

瑣事さうじふまむすくく詳ちやう問もん訊しん究きゆう一更まふ

中國ちゆうごくの紀載きさい西洋さいやうの書冊しよさくふまむすもの

参訂さんてい攷かう補ほ一と併ひら按あんしり書十二卷

圖二卷ずを作つくと甲寅けつの秋あきふまむすと書成しよじやう

と上たう敷し謹きんと起本きほんの提要ていようと記きと事

志し

寛政六年甲寅八月

臣國瑞謹識

大坂の
上野の
寛文六年の
東部
内省
國
漢

北様聞略凡例

一 臣國瑞

内旨を奉——と此編を撰とる固
車 隠密小係おとと外行と毎き
書ふの——と此車の嫌疑を避と又
す——と通曉——易きふと此言辭
俚を厭と其情実の違と車状の
脱漏か——と半を要とるの其意

りし文詞を弄しと後小耳目を
悟小供もふあつさるはかり

一坤輿の載人知の及ふ不徳と分る

四大部洲とせしと所謂亞細亞歐羅巴
亞弗利加亞墨利加是なり亞細亞

屬する諸國名の著しき者ハ

皇朝支那印度鞑靼莫卧兒百兒

西亞都尔格亞刺比亞等なり歐羅巴小

屬する諸國ハ波爾社瓦爾伊斯把泥亞拂

郎察熱爾馬泥亞意大利亞翁加里亞

大泥亞諸國大貌利太泥亞魯西亞等也

此外瑣々する者ハ枚舉しとてしや

亞弗利加亞墨利加容る所の諸國ハ亦

數百ありと抑魯西亞國ハ歐羅巴

洲の東北境ハ在り亞細亞洲ハ壤を

接し幅負りんとし廣大なり加之

近時韃靼の北陸を凌ぐ吞併一
遠く亞墨利加の墟におるすも服
屬せしむる諸國ありは書中其國
を稱するもの即魯西亞をいふ
なり其外屬の國亞細亞を係り
ぬるもの總稱しむるニビリといふ
一凡地理を辨じしむる其土の廣狹
風氣の涼熱境域の接屬遠近

詳文を註し要するものこれを察
するに地勢方位を知り西も東も
地勢方位を知るに何れも
り幅負風土を詳しす國をんや
石川 忠房 村上 義禮 守り 上 兵 兵 兵
漂人 茅の 齋 一 事 事 事 輿地圖 若
干を 摸写し 地名を 譯し 何れ
國字を 以て 一 編 成 して

其國の方位形勢を著し多々互附比
しし其國の輿地を知し

一 凡書中載りたる蠻國地名人名器具
物産等の名蠻語を以て稱する者ハ
皆片假名を以てこれを記し地名
ハ雙傍標を施し人名ハ單傍標を
施し地名漢譯ありしもの物産
漢名ありしもの皆其の下小細書し

漢名ありしもの私名を記し私名を
詳ししものハ未詳の字を記し
一 凡片假名を以て蠻語を記するハ
音韻叶協略を以て其の多しと
新小例を以て引呼するものハ字
下小段点を加へ促呼するものハ字下
小横点を施し又砂茶茄等の音ハ
如き二音合呼するものハこれを合書と

三 吾邦等先がりの川とニマチマ
キマお別り呼法混同せまうし
一 允書中 謂処の里数皆彼邦の里程
用お彼邦の里程ハ五音間を二里とす
大抵

皇朝の十丁弱おのりや
皇朝の里法を以て記すもの
此の例を下し記す

一 允異邦の俗其事と理ともより
通曉 難きもの多し 倭人等
説起し其記述纏もさるる多かり
今通塞正駁を納りし
記録より其取ふべきは他日の
論正を待たむ

臣國瑞謹又識

北槎聞略目次

○卷之一

○船號同夥人名

○卷之二

○漂海送還始末上

○卷之三

○漂海送還始末下

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '卷之二', '船號', and '漂海']

○卷之四

涉歷地名風土人物

夷俗

○魯西亞通商五十二國名目

○卷之五

魯西亞世系

風土

人物風俗

姓名稱呼

婚姻

葬禮

誕生并外國人改宗改名

○卷之六

官制并諸官俸銀

服色并職役

醫官

僧官并寺院法會

歲曆

時刻

文字

寶貨

租稅

度

量

衡

筭盤

○卷之七

屋室

附佛

壇

浴室 廁

學校

藥局

官廳

附圖 固 刑罰

病院



幼院

市麩

金銀庫并ハニカ

戲場并演戲

娼家

○卷之八

年中行事

飲食

酒

醋

燒餅

砂糖

酪

烟草

販賣

○卷之九

○

櫛

キビツカ

輿

舟

武器

刀劔

樂器

銀器

漆器

書籍印版

紙

墨筆

沙漏

カンパルシカ

ヒリマリ

象棋

瓦

傘

硝子

蠟燭燈火

石餅

番瀝青

石盤寫字

雜載

○卷之十

物產

草

木

鳥

獸

魚

蟲

金石

○卷之十一

言語

○附錄

魯西亞略記

北槎聞略卷之一

東都侍醫法眼桂川甫周國瑞奉

旨撰

○船號かほのふのりな同夥人名

伊勢國あぢこ白子百姓彦兵衛船たか神昌丸

積高千石

一船頭せう

伊勢國若松村百姓

光太夫

子早二歳

一 荷物賄方

生国同断

小市

子年六歳

廿歳四月二日蝦夷地

子△口△病死

生国同断

一 水手

磯吉

子年九歳

右三人今度魯西亞國の船中へ送り

還す

紀伊国稲生村百姓

一 上乗

作次郎

卯歳十月廿三日アミシマツカ病死

伊勢国若松村百姓

一 船親父

船中諸式 賄方

三五郎

同年八月九日同病死

伊勢国桑名村百姓

一 船表賄方

帆上下舵の 左右を引

次郎兵衛

同年八月廿日同病死

伊豆國小浦村百姓

一 水手

安五郎

同年十月十六日同病死

伊勢国若松村百姓

一 同

清七

同年十二月十七日同病死

志摩國小濱村百姓

一 同

長次郎

同年十二月十四日同死

伊勢國若松村百姓

藤助

辰歲九月晦日同死

生國同断

興惣松

申歲四月五日カムシマツカウ病死

志摩國小濱村百姓

勘太郎

同年四月十日同死

伊勢國若松村百姓

九右衛門

一同

亥歲正月十三日イルコツカウ病死

生國同断

幾八

卯歲七月十五日船中病死

生國同断

藤吉

申歲五月六日カムシマツカウ病死

同國若松村百姓

庄蔵

一同

同断

新蔵

右兩人の病氣より彼邦の教法を受

姓名を改イルコツカふ山とみお

以上合ツケ七十七名

漂人を送還路ロシイマ魚曾西亞の船をエ

カテリナビリガニテシと號と長さ十五間

幅三間弱

一護送使臣

官ポロチク

アナムキリロチチラクスマシ

官クラボシキ

子二十八歳

一船司

ワシレイロドロチチロフメソフ

官セリザント

子五十五歳

一通事

エブルイワノチチトゴルコフ

子三十四歳

一總理

同

イワシヒトリポチチタスヘシエソフ

子二十六歳

先年南部より漂流セト久助とシヨク

の子がリ

一小船頭

同

ワシレイイワノチチラソフ

一同

ヒルポヌキモチチホホベソフ

一先導

デミテレイマコレチシマシ

此者先年蝦夷の地アツケシチとまりし也

一商人

ウラスニキフルチバビコソフ
子三十一歳

一同

イワンギリゴシタチ
官セリザシト
子四十三歳
子十六歳

ラホツカ郡官の子ガリ

一

アケセイワシタチ
子十六歳

船司の義子ガリ
北亞里利加の

人ガリ

右に外小吏十名
水手十八名
漂人三

名

合船四十名



五

東莞自



Faint, illegible text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.



